

7 基礎的環境整備の視点と概要

基礎③ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導

「個別の教育支援計画」を作成し、乳幼児期から学校卒業後までの長期的な視点に立って、教育、医療、保健、福祉、労働等の関係機関の連携により、生徒のニーズに対応した効果的な支援を実施している。

「個別の教育支援計画」における生徒の教育的ニーズや支援内容等を踏まえ、「個別の指導計画」を作成し、学習面・行動面の目標を定め、全教職員が協力して支援にあたっている。

基礎⑥ 専門性のある教員、支援員等の人的配置

学校生活支援教員を配置し、学習面・行動面の個別指導及び教育相談を行っている。
TT授業を実施し、手厚く支援している。
朝のST(朝学活)と帰りのST(終学活)で声掛けをし、健康観察等を行っている。

8 合理的配慮の観点と概要

合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

【身体の負担を軽減するために】

- ・住所は自転車通学区域であるが、徒歩での通学を許可している。
(低身長のため、自転車に乗るのが困難)
- ・教科書は家庭用と学校用を準備し、学校用は教室に置かせ、持ち運びの負担軽減をしている。
(教科書1セットは家庭で購入してもらう)

【座席の配慮】

- ・教師の目が届き、支援しやすくするために、教室の座席は廊下側の前に配置している。
- ・ランチルームでの座席も担任の横に配置し、量の調節や食べきれないときの配慮をしている。

【キラキラ体験での大撫山登山について】

- ・「みんなと一緒に登山したい」という本人の意志を尊重し、登山に参加させた。
- ・最前列に並ばせ、教師がゆっくりと集団を先導したことで、登山・下山とも自力でやり遂げた。

【課題提出について】

- ・宿題を全て提出できなくても厳しく注意することは避け、個別に声掛けし提出を促している。

合理①-2-3 心理面・健康面の配慮

【部活動について】

- ・吹奏楽部に入部し、クラリネットを担当している。通院等で休むことも多いが、肩身の狭い思いをしないよう、部員全員に周知させている。
- ・指が短く、クラリネットをうまく吹くことはできないが、厳しい指導は避け、見守り励ます。同じ楽器の上級生にもそのことを伝え、指導させている。
- ・部活動の時間になると体調不良を訴え、保健室に行きたいと言ってくるが、容認している。

【保護者の送迎について】

- ・寒い時期になり、保護者の送迎が多くなっている。健康面を考慮し認めている。

9 成果と課題

<成果>

対象生徒について、小・中連携をはかり、小学校で行われていた支援や家庭の要望等を全教職員で把握し支援体制を確立した。そのため対象生徒は抵抗なくスムーズに中学校生活に移行できた。

部活動選択にあたっては入念にアドバイスし、吹奏楽部を選んだ。入部後も技術面・メンタル面で顧問を中心にサポートし、部活動を続けることが出来ている。

<課題>

学習面においては家庭や支援教員のサポートにより、現在の学力が維持できている。今後徐々に学習内容が難しくなり理解が厳しくなった時、別室での個別指導も考えていかなければならない。

本人が高校進学を希望しているため、きめ細やかな学習支援が必要になってくる。

自分自身への甘えから、部活動の休部や体育の見学を申し出ることが少なくはない。今後の生徒の成長を考慮し、時には厳しい言葉がけも必要であると考ええる。